

2022年4月3日 午前礼拝
「ピリピでの開拓伝道」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 16:11~18

- 11 そこで、私たちはトロアスから船に乗り、サモトラケに直航して、翌日ネアポリスに着いた。
- 12 それからピリピに行ったが、ここはマケドニアのこの地方第一の町で、植民都市であった。私たちはこの町に幾日か滞在した。
- 13 安息日に、私たちは町の門を出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰をおろして、集まった女たちに話した。
- 14 テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。
- 15 そして、彼女も、またその家族もバプテスマを受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家に来てお泊りください」と言って頼み、強いてそうさせた。
- 16 私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させている者であった。
- 17 彼女パウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです」と叫び続けた。
- 18 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け」と言った。すると即座に、霊は出て行った。



【説教要約】

地図を見ていただくとトロアスからサモトケに行き翌朝ネアポリスについた。そしてピリピの町へ来ました。ピリピはマケドニヤ地方第1の町で植民都市でした。

使徒 16:13, 安息日に、私たちは町の門を出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰をおろして、集まった女たちに話した。

安息日にはユダヤ人が10人おれば会堂を建てるのでユダヤ人の会堂があるはずですが、会堂がないので、祈り場と思われる川岸に行き、

これは非常に重要なことです。宣教とは祈りによって始められ、祈りの中で進められるものです。私たちはまず教会を建てようと考えます。教会がなければメッセージが出来ないと考えます。しかし祈りの中で導かれるのが宣教です。パウロの一行は祈り場を探す途中で、門の外にある川岸に行くことになりました。彼らはそこに集まっている女性たちに会い、その女性たちに話しかけました。

田村先生の場合はインドネシアのバンドンで、インドネシア語の勉強をされました。そしてインドネシアのメダンにいる入江先生を頼って行きました。メダンで開拓伝導をして10人ぐらい集まっていたのですがファローで日本に帰ってきました。

次にメダンに帰ったときは、10人ぐらい集まっていた人たちは誰もいなくなりましたので、祈っているとジャカルタで伝道しているインドネシアの先生から電話があり、ジャカルタの先生が行っている家庭集会を田村先生に任せてくださいました。

家庭集会と言っても駐車場で集会をしていました。インドネシアはイスラム教なので、道を通っていく人から見えないようにテントを張って集会をしていました。駐車場にはクーラーもなく熱いのです。それでも15人ぐらい集まっていました。

田村先生は店舗を買って教会にしたいというのです。宣教基金からお金を借りたいというのです。しかし宣教規約にはジャカルタの家庭集会が教会として独立していなければ借りることは出来ないのです。

沖縄の斎藤先生に相談したら、家庭集会が独立したことにして、宣教基金から借りればよいというのです。そのようにして宣教基金からお金を借りました、滝山教会からも献金がささげられました。このようにして店舗を買い会堂にしました。ジャカルタの教会は祝福されました。

使徒 16:14, テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事に心を留めるようにされた。

テアテラ市の紫布の商人で、神を敬う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いてパウロの語る事を心にとめるようにされた。

現在の私たちには「主が彼女の心を開いてパウロの語ることを心にとめるようにされた。」このようなことは起こらないと思っていますが、ここを読んで教えられることは、家内が私と結婚する前に、家内が感情タイプで私は思考タイプだから、話が合わないということを2時間ぐらい話してくれました。

私は、結婚は誰でもすることなので、家内が感情タイプで私が思考タイプだということが、こんなに大変だということが解っていなかったのです。例えば私は淋しいということはほとんどありません。しかし家内は淋しがり屋です。私には淋しいということがどのようなことか理解できないのです。そして祈ろうということになり私は

ヨハネ 11:40, イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る」を繰り返し、繰り返し何回も祈っていたのです、どうしてそのような祈りをしたのか自分でもわかりません。「主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた」のです。

私の場合も「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る」と祈っていると、「主が家内の心を開いて、主の言葉を心にとめるようにされた。」としか考えられません。

神様は家内が信じたとおり、私は名古屋学院で1軒の職員住宅に13人申し込んだのです。私はくじ引きの日を忘れました。12人の先生が引いた「くじ」は全部はずれで、「くじ」引きを忘れた私のくじが当たっていたのです。

そして瀬戸へ行き瀬戸教会でニール先生に会い、アッセンブリーからバプテストに変わり、瀬戸教会でベテイ先生に会い、長女をいただきました。長女をいただいた時、1人目は流産、2人目も流産、3人目は1か月で亡くなりました。4人目の愛が生まれた時、愛のお母さんは出血多量で、亡くなったのです。私は、愛はなんとかわいそうな子だと思いました。

しかしベテイ先生は「神様が愛ちゃんを必要としたので生まれてきたのです。神様は愛ちゃんを必ず益にしてくださいました。私はなんと素晴らしい神様だと思いました。

私は高等学校で数学を教えていましたが、本当は物理を教えたくったのです。しかし肩こりがひどくてできないので、悶々としていました。そして私は自己中心ですからとても牧師にはなれないと思っていましたが、

ローマ 8:28, 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

私でも「神様にお委ねしたら神様が益に変えてくださる」という信仰が与えられました。そして神学校へ行く決心をしました。家内は牧師さんと結婚したかったのです。

神様は「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る」という約束を守ってくださいました。パウロの開拓伝導の話からそれてしまいましたが、パウロの開拓伝道は「主が彼女の心を開いて、パウロの語ることを心にとめるようにされた。」から始まりました。

使徒 16:15, そして、彼女も、またその家族もバプテスマを受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家に来てお泊まりください。」と言って頼み、強いてそうさせた。

このようにしてピリピ教会は始まりました。今の葛西教会は高田先生から始まりました。高田先生はいませんので高田信子姉から聞きました。葛西教会は今の東京教会が開拓伝導を始めたのです。東京教会が伝道所の家賃を払ってくれたそうです。

初めは上山雄二先生が、東京教会で朝のメッセージをされ、そのあと葛西教会に車で来られてメッセージをされ、すぐ東京教会に帰り午後集会でメッセージをされたそうです。そして上山雄二先生から高田先生に引き継がれたときは、今まで集っていた方は一人も来なくなっていたそうです。

葛西教会は何回も引っ越しをしたそうです。これは大切な記録ですから高田信子姉に書き出してもらいたいと思います。そして今の葛西教会に引っ越してきたときの家賃は1部屋で9万7千円でした。そして人数も増えてきたので2部屋借りました、その時の家賃が14万円です。現在は3部屋で18万円です。私は高田先生のご苦勞があったから今の葛西教会があることをもっと感謝しなければならないと思っています。

使徒 16:16, 私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった。

使徒 16:17, 彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続けた。

使徒 16:18, 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け。」と言った。すると即座に、霊は出て行った。

占いの霊 = 悪霊

悪霊につかれた女は、ある人の家族構成を言い当てることが出来ます。また将来起こることを予言することが出来ます。そうすることによって彼女の主人たちに多くの利益を得させていた。

それだけではなく悪霊はイエス様が神様だということが解るのです。彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続けた。

彼女の言っていることは間違っていないが、パウロはこの女性が悪霊に用いられていることに深く心を痛めました。パウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名に

よって命じる。この女から出て行け。」と言った。すると即座に、霊は出て行った。これはパウロの時代だけではなく今も起こっていることです。

私が滝山教会にいたころ千葉から滝山教会まで通ってきている兄弟がいました。その兄弟のお兄さんが毎晩悪霊にうなされているというのです。その兄弟とお兄さんは同じ部屋で寝ていましたが、お兄さんがうなされているのを聞いていたのです。

私は「イエス・キリストの御名によって命じる、お兄さんから出ていけ」と書いて家の中に貼っておき、いつも「イエス・キリストの御名によって命じる、お兄さんから出ていけ」と叫んでくださいとお願いしました。

ここで大切なことは悪霊に、「出て行ってくれませんか。」とお願いしてはいけません。「出て行け」と命令してください。次の週彼が滝山教会に来なかったので私は心配していました。その次の週彼が来たので聞きましたら、お兄さんはうなされなくなったというのです。感謝しました。イエス・キリストの御名に権威があるのです。